

PROGRAM NOTE

2006

近藤譲：ルイス・ズコフスキーの4つの短詩

メゾソプラノと4楽器のための

Four Short Poems of Louis Zukofsky

for Mezzo-Soprano, 4 Instruments

ルイス・ズコフスキー（1904-78）は、「アメリカのマラルメ」と評された前衛詩人。エズラ・パウンドにその詩才を高く評価され、ウィリアム・カーロス・ウィリアムズを始めとする同世代の詩人に大きな影響を与えた（因みに、前衛音楽のヴィルトゥオーゾ・ヴァイオリニストとして一時代を画したポール・ズコフスキーは、その息子である）。彼は、主として、大長篇詩『A』でその名を知られているが、生涯を通じて短詩も数多く書いている。この《ルイス・ズコフスキーの4つの短詩》は、題が示す通り、その中から4つを選んで歌詞（別紙）としている。第1曲は、最初期の詩“I Sent Thee Late”（1922年）、第2曲は、1950年代に書かれた“A Valentine”、第3曲の“Anew”は1930年代、そして、第4曲の“Gamut”は最晩年の1978年といったように、4つの詩はそれぞれ異なった時期のものである。

この作品は、メゾソプラノと4楽器（アルト・フルート、ヴィオラ、打楽器、エレクトリック・ギター）のために書かれているが、第1曲は、ヴィオラを含んでいない。この第1曲は、もともと、ハンブルクのアンサンブル・ラル・プール・ラルが2003年に行った私の作品のCD録音を機に作曲した独立の作品であり（そのCDは未だ発売されていない）、そのアンサンブルの楽器編成のために書かれた。今回、今夜の演奏会で初演するための作品の委嘱を受け、第1曲の編成にヴィオラを加えて、3つの曲を新たに書き下ろし、4曲で1セットの作品とした。

近藤譲

初演：2006年11月（東京「作曲家の音“近藤譲”」）

初演者：太田真紀（メゾソプラノ）、西沢幸彦（アルトフルート）、甲斐史子（ヴィオラ）

山本晶子（パーカッション）、佐藤紀雄（エレキギター）

委嘱：川島素晴（演奏会シリーズ「作曲家の音」のために）

出版：University of York Music Press (UK)

演奏時間：8分